

山梨県南アルプス市との連携概要書

自然の恵みを活かした魅力的なまち



山梨県の西部、南アルプス山脈の麓に位置している「南アルプス市」は、平成の合併により平成15年4月に誕生しています。日本第2位の高峰、北岳を有する自然に囲まれた緑豊かな地域です。平成26年6月には、市内全域がユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録され、その豊かな生態系が世界に認められています。

また、南アルプスの山々で育まれた清澄な水を源とした地形は、日本有数の御勅使川扇状地を形成し、その特徴である「水はけの良い大地」の恵みを活かした果樹栽培が最も盛んな地域です。

年間を通して、様々な果実の花が咲き、その収穫までの彩り溢れる風景は、本市を代表する景色となっています。



誇れる南アルプス市ブランドであるために



本市を代表する産業は、農業であり、さくらんぼ狩りを代表とする果物狩りには、毎年、県内外から多くの皆様にお越しいただき、爽やかな果実の魅力を堪能いただいております。近年は、団体旅行から少人数のグループ旅行が主流となり、その地域でしか楽しめない、体験できない催しを求める傾向が顕著になっています。

基幹農業において、果実原産品に付加価値をつけ「only one」となる「南アルプス市ブランド」の精度向上を課題としています。

また、農業従事者の高齢化や後継者問題により、遊休荒廃農地も増加しているのが現状であり、その課題解決に向け、農業設備支援による省力化や担い手育成等を実施し、効率的かつ有益な農業形態の構築を目指し、農業振興施策に鋭意努めています。

- ◎市 長： 金丸 一元（かねまる かずもと）
- ◎面 積： 264.14 km²
- ◎人 口： 71,890人（世帯数：27,694世帯）
- ◎交 通： 東京より中央高速道路 調布IC～中部横断自動車道
南アルプスIC（約1時間30分）
- ◎主産業： 農業、製造業、卸売業、小売業、
建設業、医療・福祉業



南アルプス
ユネスコエコパーク
南アルプス市は、自然と共生した
まちづくりを進めています。

東京農業大学との関係

1. 第12回南アルプス桃源郷マラソン大会 東京農業大学陸上競技部参加
2. 第10回(記念)山梨県クロスカントリー大会の開催(会場:南アルプス市御勅使南公園)
3. 平成26、27、28年に農学部長島孝行教授ゼミ学生が「南アルプスシルクファーム」において農業体験学習を実施
4. 平成29、30年に国際食料情報学部高柳直長教授ゼミが「市内の農家」で農業体験学習を実施
5. 東京農業大学農友会ホッケー部 白根高校第二グラウンドにて春夏合宿を毎年実施
6. 各果樹生産農家での農業研修の実施

東京農業大学出身者

手塚 光裕	叶屋園芸場 (S41)	戸栗 哲也	木材流通センター木の国サレ 営業部長 (H7)
久保田公雄	久保田農園 (S45)		
齊藤 陽一	(株)富士グリーンテック代表取締役会長 (S47)	雨宮由里子	山梨県臨時職員栄養士 (H16)
手塚 徳文	農業(果樹園)自営 (S50)	早川 真悟	白百合醸造 (H17)
秋山 仙一	農業(果樹園)自営 (S50)	岡村 翔	本田技研工業(株) (H20)
手塚 千広	南アルプス市役所副市長 (S56)	長田 諭	(株)シャトレゼ (H23)
澤口 政彦	南アルプス市役所議会事務局長 (S57)		
高橋 義徳	山梨県庁東京事務所次長 (S61)		

今後の交流の可能性

- ①ユネスコエコパークの理念に基づいた地域の活性化に関する事項
豊かな自然を守り、自然に学ぶ中で、文化、経済、社会的にも持続可能な発展を目指す「人と自然をつなぐ」取り組み【里山再生、遊休・荒廃農地への取り組み】【次世代へつなぐ環境教育、森林資源の活用等の研究、実習】
- ②世界に誇る南アルプス市ブランドのレベルアップに関する事項
特産品の魅力を最大限に活用した「南アルプス市ブランド」への取り組み【高品質素材の安定供給、低労力型農業経営への取り組み】【地域産業資源を活用した商品開発、効率的な生産品流通などへの取り組み】【農家へのインターンシップ、就農支援、人材育成への取り組み】

- ◆東京農業大学の窓口教員
食料環境経済学科 高柳直長教授、農学部伊勢原農場 石川一憲教授(農場長)
デザイン農学科 長島孝行教授、生産環境工学科 渡邊文雄教授
- ◆南アルプス市の担当窓口
南アルプス市役所 秘書課 秘書担当 伊藤 寛朗
〒400-0395 山梨県南アルプス市小笠原376番地
TEL: 055-282-6037 FAX: 055-282-1112
E-mail: hiro-ito@ciry.minami-alps.lg.jp

締結日 2018.10.15